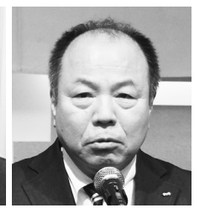
各地で総会

日本塗装機械工業会
新会長に服部修一氏



日本塗装機械工業会（CEMA・佐伯直泰会長）は、6月9日午後2時から大阪市淀川区西中島のニューオーサカホテルで、第49回年次総会を開いた。

あいさつに立った佐伯会長＝写真右＝は「コロナ禍での就任、2年間はリモートで開催、ほとんど活動ができなかったが、皆様のご尽力に支えられ、特に技術革新、品質向上環境推進に取り組んだ。

いま、平穏とはいえないなかであるが、さらなる発展に向け、変わらぬ支援をお願いしたい」と述べた。

議案事項は承認され、役員人事では、新会長に服部修一氏＝写真左＝を決めた。

▽会長＝服部修一▽副会長＝佐伯直泰（明治機械製作所）、多田洋一（ヲサメ工業）、三好栄祐（アネスト岩田）▽専務理事＝樋川浩一▽各委員長＝企画運営（山﨑諭志）、技術（加藤啓太）、統計調査（木村武司）、広報（松丸浩司）、シンポジウム（林慶一）

あいさつに立った服部新会長は「10代目の会長になる。伝統を引き継ぎ、新たな時代へと繋がるように発展したい。それには会員企業が一丸となってこそ、連携を深めて打破できると思う。そこで、3つの誓いを立てた。開かれた対話、持続可能な成長、次世代への継承である。協力を仰ぎながら共に未来を開いていきたい」と抱負を語った。

なお、今年度は次のような活動に取り組む。

▽運営企画委員会＝勉強会2月▽調査統計委員会＝機器部会、設備部会▽技術委員会＝『ガイダンスブック』の普及、乾燥炉基準作り、勉強会、過去文献・書籍の更新▽シンポジウム委員会＝第25回技術シンポジウム。その他、『50年史』制作に取り組む。

総会終了後、懇親会が開かれた。

服部新会長のあいさつに続き、来賓のあいさつを国際工業塗装高度化推進会議副理事長の髙橋大氏、日本工業塗装協同組合連合会副会長の原谷隆清氏が行い、乾杯の発声を多田副会長、中締めを佐伯副会長が、日本工塗連原谷副会長と共に大阪締めで閉会した。

1コート厚膜形変性エポキシ樹脂塗料（下塗）
エコパワー
#200HS
カナエ塗料株式會社
TEL 06-6961-2263

日本インテリアコーディネーター協会
AIに代わられない仕事

日本インテリアコーディネーター協会（北谷明日香会長）は、6月5日午後6時30分から東京都新宿区西新宿のシーアンで、総会後の懇親会を開いた。

あいさつに立った北谷会長は「ICONへの期待の高まりを感じる。いま力を入れているのが、昨年も出展したグッドライフフェアや中四国でのイベントに加え、一般生活者に向けての活動である。全国にまたがるインテリアコーディネーターの大きな団体として、ホームページの更新やSNS等はもちろんのこと、発信していきたい。人間が関わりやらなくてはならない仕事、AIにほとって代わられない仕事であり、大いに交流し、話をしよう」と述べた。

来賓としてインテリア産業協会の市川祐次専務理事が「好きでインテリアに関わり40年経った。そこそこやってきたではなく、インテリアが人生だと言えるようにしなくてはと思う。インテリアは素晴らしいを伝えようと、職場で話しており、合言葉『Loveインテリア』と指でそれを示すポージングも考えた。インテリアの仕事を好きだからこそやっている気持ちが強まるだろう」と話した。

乾杯の発声を賛助会員コルティナの米山慎司氏が「10年ほど前と比べ、会員300人、賛助会員70社と、ここまで大きくなるとは思っていなかった。情熱と努力の賜物と言える」と述べ、歓談に入った。

中締めを幹事のトーソー・島田信照氏が「ますますICONは大きく強くなっていくだろう。最近、水廻りのリフォームをした際、クライアントの立場からみて、インテリアコーディネーターの役割を再認識した。自分ひとりでは見積りからショールーム、工程や窓口管理など、できなかっただろう。インテリアコーディネーターの存在意義を改めて感じた」と述べ、散会した。

◇

ICONの今年度の活動は、昨年度に引き続き、インテリアコーディネーター（IC）の職能を一般生活者に向けてアピールすること、ICの新たなビジネスの可能性を模索すること、会員のICとしての質的向上を目指すことに注力する。具体的には、動画やSNSを活用した広報活動、ビジネス創出チームの活動活性化、CPD制度を始め、会員のスキルアップのための講座や企画の充実を図る。また、これまで積み上げてきた組織や体制を安定して維持していくために、会員増強にも取り組み、将来に向けて運営体制の改善も行っていく。

埼玉県塗料商業会
組合活動の価値を発信

埼玉県塗料商業会（日向俊夫会長）は、6月6日午後6時から埼玉県さいたま市大宮区吉敷町のかのうやで、総会後の懇親会を開いた。

あいさつに立った日向会長＝写真＝は「全国的に組合活動の活性化が話題となり、またそのあり方が求められるなか、埼塗商としては県に向け、同業にも向け、その価値を発信していきたい」と話した。

また、レインボーペイント（吉田裕志社長）が新入会員として紹介された。

乾杯の発声をトハンの伊藤純氏が行い、懇親に入り、最後に富田商店の富田浩正社長が「その店だからこそ買っていただける努力が大事ではないか」と締めくくり、散会した。

なお、今年度は「調色から営業まで役立つ色彩セミナー」といった研修の開催やマンセル会ゴルフコンペなどで親睦を図る。

大阪昭和会
小学校の外壁側壁を塗装
参加者各々の成長に繋げる

大阪昭和会（西田克行会長）は、「第93回塗装奉仕活動」を6月21日午前8時から大阪市淀川区三国本町の大阪市立三国小学校で実施し29人が参加した。

廊下の壁を塗装

塗装したのは校舎2階西面と北面の外壁側壁だった。西面外壁側壁は3色（壁2色、幅木1色）で高さ2．4m×幅68mを塗装した。塗装面積は白系87㎡、ベージュ系87㎡、幅木6・8㎡であった。また北面外壁側壁は1色（上部白色のみ）を高さ2・56m×幅60mを塗装し、塗装面積は71㎡であった。

使用塗料は関西ペイントの、水性セラマイルド3分艶（19−90A）壁上面、水性セラマイルド3分艶（17−80F）壁下面、水性セラマイルド3分艶（15−30B）幅木の内訳で同社が提供した。

同校の沿革は、1927年大阪市北中島尋常高等小学校分校として開設。1929年大阪市三国尋常小学校として独立開校。1941年4月1日国民学校令により、大阪市三国国民学校と改称。1944年豊中市へ集団疎開。1947年4月1日学制改革により、大阪市立三国小学校と改称。

大阪昭和会は、塗装奉仕活動では委員全員が積極的に参加し、施主に満足してもらえるよう全員が満足できる仕上げを目指し、準備段階から責任を持ち、各々の成長に繋がる機会とすることをモットーに毎年2回実施している。

BSサミット事業協同組合
組合員のコンプラを強化

BSサミット事業協同組合（石井英幸理事長）は、7月7日午後1時から東京都港区赤坂のANAインターコンチネンタルホテル東京で2025年BSサミット事業協同組合全国大会を開催した。

冒頭に物故組合員への黙祷を行い、5月に逝去された磯部君男前理事長をはじめ、他の逝去された組合員に対して哀悼の意を表した。

その後、開会宣言、基本宣言等に続いて、6月に就任した石井理事長＝写真＝があいさつと報告事項を行った。世界の情勢、EV化の減速、少子高齢化について触れた後、同組合の今後の方向性ついて説明し「次世代自動車への対応では、自動車メーカーとの連携が必須。同組合では連携を深めるとともに、一級自動車整備士資格の取得支援策として『eラーニング』を展開していく。また、第三者目線によるコンプライアンスを強化する」等と、語った。

理事長あいさつの後、自由民主党元幹事長で同組合顧問の中川秀直氏等があいさつ。中川氏は「自動車の変革時代と言われているが、チャンスに変えていき、さらに品質を高めていって欲しい」とエールを送った。続いて、オートバックスセブンの小林喜夫巳特別顧問、トヨタ自動車国内事業部部長の原田美穂子氏が来賓あいさつを行った。トヨタ自動車は、整備事業者と約120の整備事業者と連携に向けた取組みに着手しており、委託基準を満たすと、トヨタ整備教育を受講し同社と契約が締結される。

その後、損害保険各社、ロードサービスアシスタンス会社の代表者が祝辞を述べた。

各委員会等の事業戦略の発表では、教育統合委員会が、国土交通省の価格交渉を促進するための指針に対応するため、コンプライアンス体制を確立し、教育を階層別に実施する。次世代自動車研究委員会では、2024年度の活動報告を行いOBDに係る研修について、故障コードとなる特定DTCについて改めて説明した。また、自動車整備の将来像について「事故故障をしたら修理する」から「事故・故障をしないように整備をする」という観点が必要となる等と説明した。同委員会では、作業での不明点を調べる際の武器となる生成AIの適切な使用等も議論していく。全国大会の最後には、協賛企業の紹介があり、第一部の全体会議が終了。その後、第二部の懇親会に入った。

日本床施工技術研究協議会
横山会長が再任

日本床施工技術研究協議会（横山裕会長）は、令和7年度通常総会を6月26日午後2時30分から東京都目黒区緑が丘の東京科学大学緑が丘6号館で開いた。

横山会長のあいさつ後、総会で議案はすべて承認。役員改選では正副会長が再任となった。活動計画は、「コンクリート床下地表層部の諸品質の測定方法、グレード」、「床会式性能志向型施工要領書」の普及とその活用方法を検討・提案、現場データの提供協力を行い情報の共有化で実用性の高い研究推進を促すとともに成果の実用化を促進、各部会の目的の再確認と活性化を図るなどを挙げている。

再任された正副会長は次の通り。

▽会長＝横山裕（東京科学大学）▽副会長＝小野正明（日本左官業組合連合会、小野創建工業）、高橋宏樹（ものつくり大学）、團雅浩（日本塗り床工業会、水谷ペイント）、山本正行（日本建築仕上材工業会、MUマテックス）、横井健（東海大学）

総会終了後、記念講演会が行われ、横山会長が登壇。「コンクリート床下地の表層部品質に関する研究動向と性能志向型施工要領書への適用」をテーマに講演した。

茨城県塗料商業会
平等な付き合いで乗り越え

茨城県塗料商業会（石井康弘会長）は、6月4日午後6時から茨城県水戸市泉町の中川楼で、塗料や資材メーカーを交えて総会懇親会を開いた。

あいさつに立った石井会長＝写真＝は「何かやっていきたい気持ちでいっぱいだ。厳しい時世であるが、続けての懇親会であいさつに立った横山会長＝写真＝は「総会では事業計画を発表するが、毎年そんなには変化がない。しかし、変化がないことは重要である同じ事業を着々と進めていくということで評価できると思う。また、成果を公表するプラットフォームを構築する話が出ていたが、大小にかかわらず、平等な付き合いを通して乗り越えていこう」と述べた。

また、慶弔規定に則り、荒友商事の荒川浩信氏に店舗新築の祝い金が石井会長から手渡され、荒川氏は「昨年4月に新たに店舗を設けた。今後も精進していきたい」と謝辞を述べた。

乾杯の発声を大塚刷毛製造茨城営業所長の小川幸一氏が「行い、懇親に移った。中締めを佐久間塗料の佐久間正氏が「こういう場を活かしメーカーとディーラーが情報交換することが大事だ」と述べ、閉会した。

なお、同会総会では、今年度において教育情報事業、共同購入事業、親睦会事業、塗料普及事業に取り組むことを決めた。

DAI TECH
ダイテック株式会社
粉体塗装・静電塗装・金属加工
本社 大阪府守口市大日東町二一九番二十号
TEL（〇六）六九〇七〇〇（代）FAX（〇六）六九〇七〇八〇〇
大阪工場 大阪府守口市大日東町三八番八号
TEL（〇六）六九〇二三七一九（代）FAX（〇六）六九〇二三七五七
三重工場 三重県津市芸濃町林八五四
TEL（〇五九）二六五三三九（代）FAX（〇五九）二六五三三五八
伊賀工場 三重県伊賀市ゆめが丘七丁目六一二
TEL（〇五九五）二二八六六八（代）FAX（〇五九五）二二八六七〇

東京工業塗装協同組合 見学会
塗るための工夫随所に

広くて大きい工場を見学

東京工業塗装協同組合（吉川孝理事長）は、6月14日午前10時に群馬県邑楽郡千代田町の、同組合員会社である大泉塗工（田口知優社長）に集合し、見学会を実施した。

同社の創業は昭和54年。高品質・納期厳守の方針のもと、40年以上に渡り、小型部品から重厚長大な建設資材まで幅広く金属塗装を手掛けている。

同組合研修委員長の加藤誠哉氏は「大物塗装の工場であり、参加メンバーには広くて大きい超巨大工場と映ったようだ。ロッカーのような筐体部品を効率よく塗るため工夫が随所に見られた。メンバーの中には塗装中のブース内に入って撮影させてもらえるなど、ほぼ制限なく見学させていただいた。ショットブラスト設備もあり、社内で治具剥離しており、皆さん感心していた」と所感を述べている。

日本芳香族工業会
新会長に船木保宏氏

日本芳香族工業会（宮岸信宏会長）は、6月6日午後4時から東京都中央区日本橋茅場町の鉄鋼会館で第68回定時総会を開いた。

今年度は任期満了による役員改選において、会長に船木保宏氏（太陽石油執行役員）が新たに選ばれた。

議案は全て承認され、2025年度の事業計画で市場調査に関する事業として芳香族製品統計調査並びにデータ開示、同海外動向に関する講演会の開催、需要見通し作成と公表、その他、関係諸機関等へのデータ開示と作業協力を行う。

午後6時から懇親会が開かれ、あいさつに立った船木新会長＝写真＝は「ここ数年は、能力過剰、需要の伸び悩みがあり、非常に厳しい状況が続いている。また、カーボンニュートラルへの対応を我々も行っていかないが、実際問題としては理想と現実のギャップが大きすぎるという認識ではないか。

芳香族製品は人々の生活にはなくてはならないもので石化業界は国の基盤を支える業界の一つであることは間違いない。芳香族、タール製品による国民生活の安定、向上貢献できるよう取り組んでいく」と述べ、懇談に入った。

改修専門工事業
ISO9001認証取得
SAKAKURA
環境フィニッシュアップ
株式会社サカクラ
代表取締役社長　坂倉　徹
本社／〒235-0021　横浜市磯子区岡村7-35-16
☎045-753-5000（代表）
http://www.sakakura-kk.co.jp